

2017年度第4回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 西湖特別

西湖（さいこ）は、山梨県南部にある淡水湖。富士五湖の1つで、面積は約2.1k㎡。周辺には溶岩でできた洞窟が存在しており、蝙蝠（こうもり）穴や竜宮洞穴は国の天然記念物に指定されている。

○ 本栖湖特別

本栖湖（もとすこ）は、富士山の北麓にある淡水湖。富士五湖の1つで、最大水深が五湖の中で最も深い。現在の千円札の裏側には、富士山と本栖湖面に映る逆さ富士が描かれている。

○ サウジアラビアロイヤルカップ（GⅢ）

本競走は、2歳マイル路線のさらなる充実を目的として平成26年に新設された、『いちようステークス』を前身とする重賞競走。オープン特別として実施されていた当初は芝1600mであったが、24年より距離が1800mに延伸され、重賞競走に格上げとなった26年に再び1600mに変更となった。

なお、本競走は、リヤド馬事クラブより寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 鷹巣山特別

鷹巣山（たかのすやま）は、東京都奥多摩地区にある標高1737mの山。埼玉県の上峰山から雲取山を経て、七ツ石山、六ツ石山へと続く奥秩父山塊の途中にある。

○ テレビ静岡賞

テレビ静岡は、静岡市に本社を置く放送局。昭和43年の開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 毎日王冠（GⅡ）

本競走は、昭和 25 年に創設された重賞競走。当初は距離 2500m、定量の勝抜制で実施されていた。30 年に負担重量が別定重量に改められたことを機に、過去の優勝馬にも出走資格が与えられ、59 年に現在の距離 1800mに変更された。

同年に秋の天皇賞が 3200mから現在の 2000mに短縮されたことから、天皇賞（秋）へと繋がる競走となった。第 1 着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。

毎日新聞社は、東京・大阪・愛知・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 3 日>

○ 山中湖特別

山中湖（やまなかこ）は、山梨県南東部にある淡水湖。富士五湖の 1 つで、面積は五湖の中で最も大きい。周辺には、数多くの別荘地が広がる。

○ 六社ステークス

六社（ろくしゃ）は、東京競馬場に近接する大國魂神社の別称。武蔵大國魂神を主神とする神社で、八神を祭り、うち六神は武蔵国の有力神であることから、六所宮や六社明神とも言う。5 月 5 日の例大祭は、深夜に町中の灯が消され、その暗闇の中を 8 基の神輿が御旅所まで渡御することから、くらやみ祭と呼ばれている。

○ グリーンチャンネルカップ

グリーンチャンネルは、BS デジタル放送、CS デジタル放送および全国のケーブルテレビなどで、中央競馬のレースを中心とした競馬情報と各種農林水産情報を放送している放送局。本競走は、同局より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 4 日>

○ プラタナス賞

プラタナス（Platanus）は、スズカケノキ科スズカケノキ属の落葉高木の総称。ヨーロッパ南部からアジア西部が原産地で、日本には明治時代に伝わったとされる。花言葉は「天才」「非凡」。

○ 白秋ステークス

白秋（はくしゅう）は、秋の異称。中国の五行思想では、四季に色を当てはめ、「青春・朱夏・白秋・玄冬」とそれぞれ表現される。

○ 日・アイルランド外交関係樹立60周年記念

アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス（GⅡ）

本競走は、アイルランドとの外交関係樹立60周年を記念して実施される。

『府中牝馬ステークス』は、昭和28年に創設された『東京牝馬特別』を前身とする重賞競走。創設時は2000mであったが、昭和30年に1600mとなり、平成8年にはエリザベス女王杯の前哨戦として1800mに延伸され、23年にGⅡに格上げされた。また、本年より『アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス』と競走名を変更し、同国のレパーズタウン競馬場との交換競走として実施される。同競馬場は、ダブリンの南に位置し、『アイリッシュチャンピオンステークス』などが実施されている。

なお、第1着馬には同年のエリザベス女王杯への優先出走権が与えられる。

<第5日>

○ 東京ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成11年に創設された障害重賞競走。通常の競走では高さ130cmの竹柵2基と140cmのいけ垣が使用されるが、本競走では、高さ150cmの大いけ垣2基と大竹柵に変更して行われる。また、スタンド前のホームストレッチ半ばに可動式障害が設置されることにより、長い直線で最後まで目が離せない争いが繰り広げられる。

○ 赤富士ステークス

赤富士（あかふじ）は、早暁のわずかな時間に富士山が朝日に照らされ赤く染まる現象。晩夏から初秋にかけて見ることができる。葛飾北斎の『凱風快晴』をはじめとして、多くの絵画の題材に用いられている。

○ オクトーバーステークス

オクトーバー（October）は、10月を意味する英語。ラテン語で「8」を意味する「Octo」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において8番目の月と言う意。

○ 神奈川新聞杯

神奈川新聞は、神奈川新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ アイビーステークス

アイビー (Ivy) は、ウコギ科キヅタ属の常緑つる性低木。蔦 (ツタ) の一種。耐寒性に優れ、日陰でもよく育つことから庭園などで栽培されることが多い。花言葉は「誠実」「友情」。

○ 秋嶺ステークス

秋嶺 (しゅうれい) は、秋の山、嶺のこと。秋は空気が乾燥し、澄んでいるので遠く離れた山々を鮮明に見ることができる。

○ 富士ステークス (GⅢ)

本競走は、ジャパンカップの招待を受けた外国馬が出走できる競走として、第1回ジャパンカップと同年の昭和56年に芝1800mの定量戦として創設された競走。平成9年より1400mの別定戦として通常の国際競走に改められ、10年にはGⅢ競走となった。その後、12年からマイルチャンピオンシップに繋がる競走として、実施時期は11月から10月に、距離は1600mに変更された。なお、第1着馬には同年のマイルチャンピオンシップへの優先出走権が与えられる。

富士は、静岡県と山梨県にまたがる円錐状成層火山。標高は3,776mで日本一を誇る。25年6月には、「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」としてユネスコの世界文化遺産に登録された。

<第7日>

○ くるみ賞

くるみ (胡桃) は、クルミ科クルミ属の落葉高木の総称。日本に自生する多くはオニグルミと呼ばれる種である。果実の核はきわめて堅い。種子は食用となるほか、塗料などにも用いられる。花言葉は「知性」「知恵」。

○ 甲斐路ステークス

甲斐路 (かいじ) は、甲斐国全体に通じている路。甲斐国は、旧国名の1つで今の山梨県全域に当たる。古代甲斐国は、「甲斐の黒駒」と言う名馬の産地として伝えられ、平安時代には信濃・上野・武蔵とともに天皇直属の牧場が置かれ、毎年都に馬を献上する駒牽 (こまひき) が行われていた。

○ ブラジルカップ

本競走は、日本とブラジルの修好 100 周年を記念して平成 7 年に創設された競走。

ブラジルは、南アメリカに位置する連邦共和制国家。南米大陸で最大の面積を誇る。同国内にあるガベア競馬場では、『ブラジル大賞典』や同国のダービーにあたる『クルジェロドソル大賞典』が実施される。

<第 8 日>

○ 国立特別

国立（くにたち）は、東京都の中央部に位置する市。市名は、大正 15 年に中央線の国分寺駅と立川駅の間で 2 つの駅名の頭文字を取った「国立駅」が開業したことに由来する。駅から南に伸びる大学通りは、桜やいちょうなどの木で彩られる。

○ 神無月ステークス

神無月（かんなづき）は、陰暦で 10 月のこと。「かみなづき」とも呼ばれる。10 月に八百万の神々が出雲大社に集まり、諸国に神が居なくなる月と言う俗説に由来する。

○ アルテミスステークス（GⅢ）

本競走は、2 歳牝馬路線のさらなる充実を目的として、平成 24 年に新設された牝馬限定の重賞競走。1600m の馬齢重量戦で争われ、関東地区における『阪神ジュベナイルフィリーズ』の前哨戦として位置づけられている。

アルテミス（Artemis）は、ギリシャ神話に登場する狩猟と純潔の女神。古代ギリシャでは、豊穡や多産の神として人々に信仰されてきた。

<第 9 日>

○ 河口湖特別

河口湖（かわぐちこ）は、山梨県南都留郡の富士山北麓に位置する淡水湖。富士五湖の 1 つで、湖面標高は五湖の中で最も低い。湖中には、鵜の島と呼ばれる小さな島が浮かび、縄文時代や弥生時代の土器や石器が多数出土している。

○ 精進湖特別

精進湖（しょうじこ）は、山梨県中南部の富士山北西麓にある淡水湖。富士五湖の 1 つで、面積は五湖の中で最も小さい。かつて本栖湖、西湖とは 1 つの湖で、「せの海」と呼ばれていたが、富士山の噴火によって現在のように 3 つの湖に分断されたと言われている。

○ 紅葉ステークス

紅葉（こうよう）は、秋に落葉樹の葉の色が変化する現象。落葉に先立って、葉で赤色のアントシアニンが生成されるために起こる。一般的に最低気温が 5～6℃になる頃に見頃を迎えると言われている。秋になると東京競馬場周辺の木々も鮮やかな紅葉で彩られる。

○ 天皇賞（秋）（G I）

本競走は、明治 38 年 5 月 6 日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。

第 1 回の昭和 12 年秋は 2600m、13 年春が 2700m で、3 歳以上の馬によって争われた。13 年秋から 4 歳以上、3200m の競走条件となり、戦争で中断される 19 年春（この時は能力検定競走として非公開で実施）まで続き、戦後の 22 年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の名称である天皇賞となり、春が京都、秋は東京で実施され、長い歴史を誇る天皇賞は古馬最高の栄誉とされてきた。56 年に勝抜制が廃止されて過去の優勝馬にも出走権が与えられ、59 年には秋の天皇賞を 2000m に短縮、さらに 62 年には 3 歳馬にも秋の天皇賞への出走権が与えられた。これにより春は 4 歳以上でステイヤーの、秋は 3 歳以上で中距離のナンバーワンを決めるレースと、その性格が明確に分けられた。

○ 三峰山特別

三峰山（みつみねさん）は、埼玉県南西部の秩父山地の山。本来は妙法ヶ岳・白岩山・雲取山の総称だが、一般的には三峯神社のある辺り、あるいは妙法ヶ岳を指す。